



私は誰？

私は何のために作られたのだろうか？

「私の名前はパトリックです...私は捕虜になり...アイルランドで囚われの身になりました」

富から貧困へ。ひとかどの立場から名もない人へ。家族から離されて孤独へ。

大きな騒動は私たちの人生を混乱させます。それらは私たちの心の奥底まで揺さぶり、自分が誰なのか、私が存在する意味は何なのかと問うようになります。

私たちのアイデンティティは、これまで私たちに起こったこと、私たちが傷つけた人たちに目的が奪われたことに根ざしているのでしょうか？

たとえ地球を揺るがすようなことが起こらなくても、私たちは「私は誰なのか?」、「私はなぜここにいるのか?」と知りたがります。私は移り行く時の中で意味が無いのだろうか?偶然に存在するだけなのだろうか?素晴らしいものがあり、あなたを最も深い心の傷から引き上げ、最悪のように思われる状況（奴隷）に目的意識を与えることができると想像してみてください。あなたが測ることができないほど豊かで力強いものを想像してみてください。あなたのアイデンティティと人生の目的を完全に変えるものを想像してみてください。

パトリックは多くを失いました。しかし、神を仰ぎ見たとき、自分のアイデンティティはこれまで受けた苦難や失ったものの中にあるのではなく、自分が真になるべき人の中にあることを知ったのです。人生の目的は奪われたのではなく、他のものをはるかに超えた大きな目的があることを知ったのです。

「私は泥の中に深く横たわる石のようでした。その時、力ある方が来て、憐れみを持って私を引き上げ、壁の一番上に持ち上げて置いてくださいました。だからこそ、私は、大きな声で叫んで、主の素晴らしい良い業（わざ）に報いなければなりません。ここで、今、そして、永遠に。」

パトリックの告白からの引用

パトリックは、**1500年以上前に**前述のような体験をしました。それ以来、イエス・キリストはアイルランドと世界中の人々のために同じ御業（みわざ）をなさっています。

多くの人が自分が誰であるか、なぜここにいるのかを知ろうと苦労している時代に私たちは生きています。私たちは、仕事、人間関係、野心、娯楽、ソーシャルメディアのプロファイル、セクシュアリティなどで自己意識しようとしてきましたが、それらは脆く満たされないものであることがわかりました。

しかし、パトリックのように、命を得させるイエス・キリストの水、生ける水に頼るなら、「わたしが来たのは、羊に命を得させ、しかも豊かに得させるためである」（ヨハネ**10:10**）とおっしゃるイエスに出会います。

人生の目的とアイデンティティの秘密は、私たちの行いの中に見つかるものではありません。それは、私たちが知っている方の中にあるのです。